

第13回TTMフォーラム九州

日時

2023年11月11日(土) 14:00 ~ 18:00

先生方におかれましては益々ご健勝のことお慶び申し上げます。
第13回TTMフォーラム九州をLIVE配信にて開催させていただきます。
諸事ご多用のことと存じますが、先生方のご参加を心よりお待ちしております。

参加費として、1,000円徴収させていただきます。
下記URL、もしくは二次元コードよりお申込み、お支払いをお願いいたします。
https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=9820032236252798&EventCode=P100254837



特別講演

代表世話人

三重大学医学部附属病院 輸血・細胞治療部
松本 剛史 先生

佐賀県医療センター好生館 検査部
平野 敬之 先生

血友病の基礎と最近のトピックス 臨床検査で注意すべきこと

教育講演

当番世話人

久留米大学病院 臨床検査部
久保山 健治 先生

佐世保市総合医療センター 医療技術部
池田 栄一郎 先生

「臨床へ貢献する凝固・線溶検査」であるためにできること

↑ 特別講演

血友病の基礎と最近のトピックス 臨床検査で注意すべきこと

三重大学医学部附属病院 輸血・細胞治療部
松本 剛史 先生

血友病はX染色体連鎖潜性の遺伝形式をとる先天性疾患である。第VIII因子あるいは第IX因子の異常によって発症する出血性疾患でAPTTの延長がみられ、治療の基本は不足する凝固因子の補充療法である。最近治療の中心になってきている半減期延長製剤は、凝固因子が分子修飾されることによって、凝固一段法によって測定される凝固因子活性値が正確な止血能を反映しない場合がある。また、最近になって補充療法以外の治療も多く開発されてきており、これらの治療はインヒビター患者においても有効ではあるが、投与を受けている患者はAPTTが過短縮してしまうなどといった一般検査では正確な止血能を把握できない問題が出てきている。

本講演では、最近の新しい治療によって明らかになってきている血友病の臨床検査上の問題点などを解説する。

↑ 教育講演

「臨床へ貢献する凝固・線溶検査」 であるためにできること

久留米大学病院 臨床検査部
久保山 健治 先生

凝固・線溶検査は出血や血栓といった生命に直結することに関係する検査である。そのため、ケースによっては検査結果をすぐに臨床へ報告することで、早期に適切な治療などが実施されることになる。しかし、それは正確な検査結果を報告することが前提となる。凝固・線溶検査では検体採取から測定をするまでの間に結果に影響を及ぼす様々な要因があり、偽データとなることも多く経験する。また、治療や病態によっても大きく検査結果が変動することから、結果の解釈が難しく苦手意識をもっている方も少なくないのではないだろうか。

本講演では、私がこれまでに経験してきた事例を提示し、凝固・線溶検査で偽データが出る原因と対策を述べていきたい。そして、凝固・線溶検査を通して臨床へ貢献するために我々検査技師ができることを皆様とともに考えていきたい。